

「斎場の分散配置も検討課題の一つ」と市担当部長が答弁 新斎場建設問題、財源については国会議員と連携して質問

12月議会一般質問が13日に終わりました。私は9日に登壇、大雨災害、原発、新斎場建設の3つの問題を取りあげました。

大雨災害では、観測史上最高の242.5ミリの記録した7月の大雨や8月、9月の大雨についてとりあげ、災害情報の発信だけでなく、土砂災害などを含めた全体的な総括をキチンと行うよう求めました。また、今年の大雨でも土砂災害が多発したことを重視し、土砂災害危険個所の整備の状況についてもただしました。

県とともに国に働きかけ、土砂災害危険個所の整備促進を

このなかで市側は、上越市内の土砂災害危険個所の整備率（平成27年調査）を明らかにしました。それによると、土石流で24.6%（平成25年調査は24.3%）、地滑りで42.4%（同41.9%）、がけ崩れで8.4%（同8.4%）でした。私は、整備が遅々として進んでいない中で、米山知事が「防災インフラ整備」を公約していることを紹介、土砂災害危険個所の整備率を高めるために、県とともに国に対して強気に働きかけるよう求めました。



市側は、「県や国も期待できると思うので、大いに要望したい」と答えました。

「県の3つの検証に期待」と市長

2番目にとりあげたのは柏崎刈羽原発をめぐる知事発言についてです。先の知事選で、この問題は大きな争点になりました。NHKの出口調査で再稼働反対が73%にもなりましたが、これは福島原発事故から5年以上たっても、依然として県民は原発に不安を持っていることを示しています。

私は、米山知事が、「事故原因の検証、事故の健康と生活への影響の検証、そして安全な避難方法の検証の3つが必要だ」「検証は不十分であり、県民の命と暮らしが守れない現状においては原発の再稼働の議論は始められない」とのべていることをあげ、村山市長の見解を求めました。

市長は、「まずは、国の責任において、技術的・専門的な面から原子力発電所の安全性を確保するとともに、安全性や安全対策の妥当性をどのように評価・確認したのか、また、再稼働の必要性をいかなる観点から判断したのかなどを、国民に丁寧に説明し理解を得ることが必要」「今後、米山知事が示された3つの項目について、専門的な知見を有する県の技術委員会にて徹底的な検証が行われ、その結果について県民に十分な説明がなされるものと期待している。現段階では再稼働を議論することは適切ではない」と答えました。

私が3番目にとりあげたのは新斎場建設問題です。柿崎区、大潟区、吉川区等の市民から「新斎場を建設しても柿崎にある頸北斎場は廃止しないでほしい」という声が大きくなっているなかで、市は新斎場建設の基本構



【ハルジオン】キク科の多年草です。漢字で「春紫菀」と書きます。4月から5月に咲きますが、草刈りをしたところではいまでも咲いています。花言葉は「追想の愛」、過去の愛を思い出すということでしょうか。

想策定の先送りを明らかにしました。以下は私と担当部長、市長とのやりとりの概要です。

【橋爪】10月26日の厚生常任委員会に示した新斎場建設（案）はベース、土台だと言うが、策定する基本構想では、この土台の変更もありうるかと考えてよいか。

【健康福祉部長】地域の意見を聴きながら決めていきたい。変更する場合もありうる。

【橋爪】関係区の地域協議会にたいする市の2回目の協議資料の中に、「小規模分散型の施設配置の課題」が課題の一つとして掲げられている。斎場を市内に複数配置することもありうる、課題と認識しているとみてよいか。

【健康福祉部長】最初は統合すると説明した。これに対して（頸北斎場を）残せという意見も出た。分散配置の課題についても協議したい。

【橋爪】合併特例債の活用について、先ほど、他議員の質問に「極めて難しい。くつがえすだけの材料はない」と答弁されているが、これは国への問い合わせをしたうえでどの答弁か。

【財務部長】方向が定まっていけない中で、一般論では難しいと答えた。

【橋爪】合併特例債活用について、国会議員事務所を通じて総務省市町村課に問い合わせても良かったところ、工夫ができそうだと感触を得ている。動いてもらえないか。

【市長】柿崎病院と斎場を残してほしいとの声に驚いた。その考えがどこからくるのか考えている。財源は大事なことだ。先ほどの内容で対応できれば、新しい取り組みだ。

はしづめ法一の活動レポート

No.1787 2016.12.18
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見たある記」はこちら


春よ来い

第四三五回

長時間停電

子どもの頃の記憶がよほど強烈だったの
でしようか、雷（かみなり）が激しく鳴り
響き、その回数が多くなっていくと、どう
しても停電の心配をしてしまいます。一二
月上旬に発生した雷の時もそうでした。

この日の雷は朝でした。「しんぶん赤
旗」日刊紙の配達をする当番の日だったの
ですが、二階の寝室から出ようとした瞬間
にドカンと一発きました。それも窓の外の
稲妻が鋭く、いやな感じがしました。外は
まだ真つ暗です。どうしようかと迷いまし
たが、配達を遅くするわけにはいきませ
ないので、車に乗り込みました。

幸い、この日の雷は配達が終わるころに
はしずまり、ホッとしました。いうまでも
なく、停電はしませんでした。

停電の原因となるものは落雷、強風、大
雪など様々です。どういう原因であれ、停
電すると困るのはどこの家でも同じだと思
います。ただ、わが家においては、停電が
長時間に及ぶと、家業そのものが打撃を受
け、たいへんなことになりました。

私の日記には、停電が一時間以上に及ん
だ長時間停電のときの記録がいくつか残っ
ています。その一つ、いまから一一年前の
一二月中旬の記録を紹介しましょう。

ひと眠りして目を覚ましたら停電してい
ました。朝、三時頃だったと思います。し
ばらく布団にもぐりこみ待ちました。い
つまでも電気が来ないので、電力会社へ電
話しました。柿崎区と吉川区全域が停電し
たそうです。この停電は、朝の二時一七分
から八時六分まで何と六時間近くも続きま
した。そのうえ、一晩だけで五〇軒近くも
雪が降ったからたまりません。住民は震え
上がりました。

これほどの長時間の停電は久しぶりでし
た。ひよっとすると、少年時代以来かもし
れません。昔は冬場の停電はよくありまし

た。でも、きょうほどの寒さを感じなかつ
たように思います。湯たんぼとか豆炭こた
つ、練炭こたつがありましたから、けつこ
う暖かでしたね。当時はトランジスタラジ
オがありましたので、アンテナを伸ばせば、
ある程度の情報も入ってきました。それ
がいまは完全電化の時代になっていきます
からたいへんです。暖をとるものは全くナ
シ、有線も電話もインターネットも使えな
い状態になってしまふのです。

今回の停電は朝食の時間と重なったこと
もあって、東北電力や市役所などに問い合
わせが殺到しました。当初、有線放送が活
用されず、身近な情報を伝えるものにな
ったことも不安を広げました。

大変だったのは、病院や特別養護老人
ホームなどの施設です。自家発電装置が稼
動してもせいぜい二時間、あとは電気のな
い時間に突入します。県立柿崎病院では電
源車が出たといえます。吉川区の中心部に
ある特養ほほ笑・よしかわの里では、源の
デイサービスセンターから丸ストーブを運
び込みました。冬場の長時間停電でどうな
るか。災害に十分対応できない弱点をさら
けだした六時間でした。

この日記を書いてからまだ一〇年ちよつ
としか経っていないのに、ずいぶん昔のこ
とのように思えます。この記録には長時間
停電によってわが家が一番苦しんだことが
書いてありません。それは乳搾りができな
くなった苦しみのことです。

じつはこの記録を書いた年の三月にわが
家は乳搾りをやめていました。それ以前の
長時間停電では、乳搾りの時間になっても
搾乳機のスイッチを入れることができな
い、牛の乳は張ってくる、まだか、まだか
とひたすら復旧するのを待ちました。あの
ときの切なさ、いまでも思い出すと胸が締
め付けられます。

指定ごみ袋の不具合、公表遅すぎ！ 全世帯に無料配布を！



厚生常任委員協議会が13日開かれ、**指定ごみ袋の一部の不具合**について、正副委員長をのぞく全委員から、「対応が遅く、誠実さが無い」など厳しい批判が相次ぎました。

市の説明によると、市の指定ごみ袋（燃やせるごみ・生ごみ用）で、今年4月から6月にかけて約300の販売所に納品したもののうち、破れやすく使いものにならないものが約8万4000組あった（約4万組は回収）と言います。原因は古米と廃プラスチックの配合の調整が不十分だったことによるとのこと。市役所への市民の苦情や問い合わせは250件以上にのぼったそうです。市としては今後、再発防止策をすすめるとともに、不具合のある袋の買い置きについては、レシートがある場合は求めた販売店にて、ない場合は製造業者または市役所の生活環境課まで連絡してもらいたいと広報するとしています。

これに対して委員からは、

「わかった段階ではなく、12月上旬まで公表しなかったのはおかしい」「組織としての危機管理、最初の対応が間違っている」「苦情を言ってきた人はほんの一部だ。もっと多くの人たちが被害に遭っている」「不具合の申し出があった場合はレシートがなくても事情を確認して交換措置をとるべきだ」「行政側に誠意がない。広報には謝罪もない。全世帯にお詫びし、10枚になるか何十枚になるかわからないが配るべきだ」「代替りの袋の製造が間に合わなかったら、買い物袋などでの緊急対応もできたはずだ」「ごみ袋が有料化された中で、2枚重ねて使うなど市民に負担を強いている問題だ」などの声が相次ぎました。

これに対して土橋副市長は、「有料化に伴って、市にはしっかりしたものをつくる責任がある。結果としてご迷惑をおかけし、不信をまねいた。心からお詫び申し上げたい。今後、どうするか改めて検討したい」とのべました。今後の動きに注目です。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	12月7日(水)	12月14日(水)
上越南消防署	0.040	0.050
上越北消防署	0.057	0.057
新井消防署	0.047	0.057
頸北消防署	0.047	0.057
頸南消防署	0.053	0.060
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.050	0.060
名立分遣所	0.053	0.050